

別記様式（第4条関係）

会 議 録

議 題	平成 26 年度 第 4 回 大垣市障がい者の暮らしを支える協議会		
日 時	平成 27 年 1 月 29 日 13 : 30 ～ 15 : 00	場 所	大垣市役所 3 階合同委員会室
		事務局	大垣市社会福祉課
出席者 (欠席者)	<p>【協議会委員】※敬称略</p> <p>[出席委員(14 名)]</p> <p>山田 毅彦、橋本 聖子、西川 真美、小山 亜希子、橋川 実、 馬久地 ふさ子、永田 明子、白木 裕子、長谷川 正志、出口 和宏、 野原 弘康、日下部 良邦、伊藤 哲也、田口 道治</p> <p>[欠席委員(4 名)]</p> <p>早崎 正人、北嶋 和子、成瀬 重雄、伊藤 光彦</p> <p>【事務局】</p> <p>(福祉部) 中山福祉部長</p> <p>(社会福祉課) 藤課長、大澤主幹、川瀬主幹、奥田、衣斐</p>		
傍聴者数	0 人	記録方式	全文・要約
藤課長 (社会福祉課)	<p>皆さんこんにちは。</p> <p>定刻になりましたので、ただいまから「平成 26 年度 第 4 回 大垣市障がい者の暮らしを支える協議会」を開催させていただきます。</p> <p>今回も司会を務めさせていただきます、社会福祉課長の藤でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、はじめに、福祉部長の中山がご挨拶を申し上げます。</p>		
中山部長 (福祉部)	<p>本日は、お忙しいところ、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>また、日頃は、市政全般、とりわけ障がい者福祉に関しまして、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。</p> <p>昨年は、平成 28 年 4 月施行予定の「障害者差別解消法」に向けまして、市</p>		

	<p>民の方々に障がいについての理解を深めていただくため、広報マンガやパンフレットの作成、講演会や街頭啓発などをおこなって参りました。新たな年を迎え、今年も引き続き取り組んで参る所存でございます。</p> <p>また、昨年から委員の皆さまにご意見をいただきながら、修正して参りました第4期障害福祉計画も、本日、最終の計画案を提示させていただきたいと思っております。</p> <p>皆さまのニーズに沿った、障害福祉計画を作成して参りたいと思っておりますので、委員の皆様方におかれましては、それぞれご専門のお立場から忌憚のないご意見ご提言をいただきますようお願い申し上げまして、簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。</p>
<p>藤課長 (社会福祉課)</p>	<p>続きまして、委員の皆様のご紹介でございますが、前回と変更がございませんので、お手元の名簿をもって、紹介に代えさせていただきます。</p> <p>次に、本日の委員の皆様の出席状況につきまして、ご報告をさせていただきます。</p> <p>委員総数18人中、出席委員は14名でございます。</p> <p>設置要綱第5条第2項の規定に基づき、出席人数が過半数を満たしておりますので、本協議会が成立しておりますことをご報告させていただきます。</p> <p>それでは、設置要綱第5条第1項の規定に基づき、議長は会長をもって充てることになっておりますので、田口会長様には、ご挨拶のあと、議事進行をお願いします。</p> <p>田口会長様、よろしくお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>この協議会も4回目を迎えます。今年度は第4期障害福祉計画策定の年でもあります、今回は最終回です。</p> <p>部会活動も今年度は前期、後期と2回おこなわれ、順調に進んでいるようです。</p> <p>本日はまず、部会活動報告をいただき、活動内容の確認をしていきたいと思</p>

<p>奥田 (社会福祉課)</p>	<p>っております。</p> <p>次に第４期障害福祉計画の最終案について、みなさまのご意見を賜りたいと思います。</p> <p>それでは、議事１「平成２６年度各部会の開催報告」について事務局からお願いします。</p> <p>事務局社会福祉課の奥田でございます。</p> <p>それでは、議事（１）平成２６年度 大垣市障がい者の暮らしを支える協議会各部会の開催報告」についてご説明させていただきます。</p> <p>前回の協議会以降、開催された部会につきまして、ここでご報告させていただきます。</p> <p>資料１をご覧ください。</p> <p>はじめに、地域移行支援部会でございます。</p> <p>平成２６年１１月２７日に第２回目の部会を相談支援部会と合同で開催いたしました。</p> <p>メンバーは、西濃病院、大垣病院など精神科病院、相談支援事業所を中心に、２３人にて開催いたしました。</p> <p>「精神科病院から退院し、地域生活に定着した事例について」をテーマに、実際の事例を通し、地域定着についての課題を検討いたしました。</p> <p>主な内容といたしましては、長期入院の方を退院させる際、家族が本人を受け入れる体制が整っていないことが多く、地域移行が進まないという意見に対しまして、入院中に、家族の方に福祉サービスの紹介や、退院に向けた支援プランを示し、家族の理解を求めることが必要であること。</p> <p>地域移行後、精神状態が悪化し再入院し、再び地域に戻る場合、受け入れ先の確保や支援の方法に困ることがあるという意見に対しまして、地域移行後も、</p>
-----------------------	--

病院、事業所など他職種で連携して支援する体制が必要であり、再入院から退院後も、もとのグループホームや就労支援事業所などでの受け入れ体制が必要であること。

家族の高齢化により、地域移行後は、高齢者と障がい者といった複数の問題を抱えたとき、相談場所がわからないという意見に対しまして、障がい者、高齢者それぞれの関係機関が連携し、支援体制を強化する必要があることを確認し、今年度は、地域移行の体制をつくることを目的に、事例を通して課題や課題解決の方策について協議して参りましたが、来年度はモデルケースを通して、関係機関がチームとして支援する体制づくりを進めていく予定でございます。

2 ページをご覧ください。

続きまして、暮らし支援部会でございます。

平成26年12月24日に第2回目の部会を相談支援部会と合同で開催いたしました。

メンバーは、柿の木荘、障がい者生活支援センターなど相談支援事業所を中心に、24人にて開催いたしました。

「日中一時支援事業の利用についての現状と課題について」をテーマに日中一時支援の事業所より、施設の現状と課題について発表をおこない、情報共有とともに、今後の相談支援に活用するため、検討をおこないました。

主な内容といたしましては、緊急時のサービス利用が難しいという意見に対しまして、日ごろから利用してもらいながら、その施設に慣れていただき、緊急時の利用がスムーズに行えるよう、市や相談支援員から計画的なサービス利用を促していく必要があること。

利用者側のニーズとして、送迎希望が多いという意見に対しまして、実際に送迎サービスを実施している事業所が少ないため、利用者のニーズが高い送迎サービスの実施を、各事業所に働きかけいく所存でございます。

続きまして、就労支援部会でございます。

平成26年11月27日に第2回目の部会を開催いたしました。

メンバーは、ワークステーション大垣、障害者福祉支援センターなど就労支援事業所を中心に28人で開催いたしました。

始めに、障がい者の就労支援に関する大垣市の状況について、ご報告させていただき、「福祉就労から一般就労への移行・定着支援について」をテーマに、就労支援事業所より、実際の事例を発表していただき、情報の共有をおこないました。

主な内容といたしましては、就労支援事業所において、就労意欲の低い障がい者に対し、どのような支援や訓練をおこない、就労意欲を高めていくのかという意見に対しまして、本人の状態、意向を把握し、それに合った支援をおこない、モチベーションを上げる必要があること。

一般就労後も、働き続けられるか不安が先立ち、仕事がうまくいかず、定着できないという悪循環があるという意見に対しまして、事業所や支援機関などが企業と連携し、本人の強みや配慮が必要なところを企業側に伝え、理解を得たうえで定着に繋げていく必要があること。

企業・障がい者双方が、雇用や就職に対して不安や心配を抱えているという意見に対しまして、職業体験実習などを利用し、本人の特性を見極めながら就労に繋げ、その後も他機関が連携し、支援をおこなっていく必要があることを確認し、福祉就労から一般就労に繋げるには、就職するまで以上に、就職後の定着支援が重要であり、就労支援センター、福祉就労施設、一般就労事業所等が常に情報を共有し、連携した支援体制が必要であり、今後、個別の支援会議等を開催していく予定でございます。

続きまして、相談支援部会でございます。

今までは、他の部会と合同でおこなってございましたが、今回、単独で平成

26年12月24日に部会を開催いたしました。

メンバーは、柿の木荘、障がい者生活支援センターなど相談支援事業所を中心に29人で開催いたしました。

「計画相談支援研修会」をテーマとしまして、指定特定相談支援事業所を対象とし、計画相談支援に係る研修会を実施いたしました。

岐阜県障害福祉課の上野様を講師にお招きしまして、法改正の流れやサービス等利用計画を作成する際の視点についてお話いただき、引き続き、ひとりひとりのニーズに沿ったサービス等利用計画の作成に努めていく所存でございます。

続きまして、権利擁護部会でございます。

平成27年1月19日に第2回目の部会を開催いたしました。

メンバーは、柿の木荘、障がい者相談支援事業所など相談支援事業所を中心に23人で開催いたしました。

「成年後見制度利用の支援について」をテーマとしまして、相談支援事業所を対象とした研修会を実施いたしました。

ひだ障がい者総合支援センターぷりずむ相談支援専門員浅岡様を講師にお招きしまして、実際の事例をお話いただき、今後も利用が増加すると思われるため、相談員の方に制度についての理解を深めていただき、相談支援の中で利用が必要であれば、専門機関へ繋いでいくことが必要であり、今後、西濃成年後見センターを含めて連携を強化していく所存でございます。

以上、平成26年度の各部会の開催内容についてご報告申し上げます。

なお、子ども支援部会でございますが、今年度中に開催予定でございますので、次回、平成27年度第1回目の協議会でご報告させていただきたいと思っております。

よろしくお願いいたします。

会長	<p>ただいまの報告につきまして、ご意見ご質問などありましたらお願いします。</p> <p>就労支援部会ですが、「福祉就労から一般就労への移行・定着支援について」とありますが、実績はあるのでしょうか。</p>
大澤主幹 (社会福祉課)	<p>今年度、12月末現在で福祉就労から一般就労へ繋がった事例は2件あります。B型事業所から移行した方が1名、生活介護から移行した方が1名みえます。</p>
会長	<p>暮らし支援部会ですが、日中一時支援が取り上げられたのは、初めてだと思うのですが、その中の意見で、「利用者のニーズとして使い勝手が悪い」という意見がありましたが、協議の中で解決策はいくつか挙げられたのでしょうか。</p>
大澤主幹 (社会福祉課)	<p>大垣市が契約しております日中一時支援事業所は21か所ほどありますが、実際利用している事業所は10か所しかなく、保護者の方の意見としましては、送迎サービスをおこなっているところが少ないということでした。解決策としましては、事業所に送迎サービスをおこなっていただくよう要望していることと、20か所ほどの事業所と契約しているのですが、大垣市内で使える所が欲しいというご要望がありますので、まずは、少し離れた施設でも普段から利用していただいて、緊急時にも使えるようにしていただきたいことを、利用者の方をお願いしていくことを進めております。</p>
会長	<p>今回、部会メンバーは事業所が多く、利用者の方には伝わらないので、今後の課題ということですね。</p>
大澤主幹 (社会福祉課)	<p>相談支援事業所の方がお見えになっておりましたので、相談の中で利用者の方に促していただくことをお願いいたしました。</p>
委員	<p>就労支援部会の、福祉就労から一般就労というのは、大変難しいことと思う</p>

	<p>のですが、具体的に教えていただけますか。</p>
<p>大澤主幹 (社会福祉課)</p>	<p>一般企業の会社で、障害者雇用の実績があります垂井町の会社に繋いでいただきました。</p>
<p>委員</p>	<p>日中一時の送迎サービスをというご意見がありましたが、事業所の送迎サービスということで進めていくのが良いのか、移動支援を組み合わせ使っていただくのが良いのかというところで、やはり事業所によって送迎を出す余力がない事業所もあると思いますので、こういったご意見からこういったかたちになったのですか。</p>
<p>大澤主幹 (社会福祉課)</p>	<p>当日、ご参加いただいた事業所の方は介護保険サービスをやりながら、障がいの受け入れを広げていただいた事業所が多く、送迎車両は持っているが、障がいの方の利用が少ないので、送迎となると計画を立てられないのでお断りしているということでした。定期的な利用を進めていく中で、計画を立てられれば送迎をおこなえるということでしたので、事業所の送迎サービスをおこなっていただく方向でお願いしております。</p>
<p>会長</p>	<p>つづきまして、議事2「障害福祉計画の計画案」について、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>大澤主幹 (社会福祉課)</p>	<p>社会福祉課 障害福祉グループの大澤でございます。</p> <p>「議事（2）第4期障害福祉計画の計画案について」ご説明させていただきます。</p> <p>座って、ご説明させていただきます。</p> <p>それでは、まず、県の指示による修正箇所が5箇所ございますので、順番にご説明いたします。</p> <p>恐れ入りますが、資料2大垣市 第4期障害福祉計画（計画案）37頁をご</p>

覧ください。

はじめに、表の上から３番目の事業、「自立訓練（生活訓練）」でございますが、生活訓練事業には、通所・居宅・宿泊の３形態がございます。

前回までの素案では、これらのうち、通所型と居宅型の合計をお示ししておりました。理由は、本項目が日中活動系サービスであるため、宿泊型を外していたものでございます。しかし、県への中間報告において、宿泊型を含めて表記するよう指示を受けたものでございます。

次に、同じ表の一番下の「短期入所」でございます。こちらは、短期入所の見込量につきまして、医療型短期入所と、福祉型短期入所に分けたものでございます。

これは、障害福祉計画の国・県への実績報告の様式の変更に合わせたものでございます。

続きまして、４１頁をご覧ください。「計画相談支援」の修正でございますが、必要な量の見込みにつきまして、「１年あたり」で標記しておりましたものを、「１月あたり」に修正したものでございます。

続いて、４８頁をご覧ください。「地域活動支援センター」でございますが、必要な量の見込みの表の示し方を、「市内事業所」と「市外事業所」別に分けたものでございますが、国・県への実績報告の様式に合わせたものでございます。

最後に、５２頁をお願いいたします。「障害児相談支援」でございますが、必要な見込み量の標記について、先ほどの「計画相談支援」の修正と同様、「１年あたり」で表記していたものを、「１月あたり」に修正したものでございます。

いずれも、県の指導によるものでございます。

以上、５箇所 of 修正点をご説明させていただきました。

続きまして、本計画についてのパブリックコメントの結果についてご報告いたします。

恐れ入りますが、**資料３**をご覧ください。

これまでの本協議会・策定評価委員会等での協議結果を踏まえ、さらに、市民のみなさまからの幅広いご意見をいただき、計画に反映させるため、パブリ

ックコメント（市民意見募集）を実施いたしました。

実施期間は、平成２６年１２月１９日（金）から平成２７年１月１９日（月）までの１か月間行い、９人の方から９件のご意見を頂戴いたしました。

提出に際して、ご持参いただいた方が７人、ＦＡＸによる方が２人でございます。このうち、ご意見を踏まえ、加筆修正したものが２件ございます。

それでは、詳細につきまして、No. １から順にご報告いたします。

はじめに、No. １のご意見です。「施設入所者の削減」が目標にあります、将来、私たち親が居なくなった時、わが子は家で一人で生活することはできません。施設入所者を削減するようなことはしないでください。」というご意見を頂戴いたしました。

市の考え方につきましては、計画書の３１頁をご覧ください。第２章１福祉施設の入所者の地域生活への移行（２）施設入所者の削減の中で、「施設入所を望む声があることなど、地域の実情を踏まえ、平成２５年度末の施設入所者数の維持を目標値として設定します。」とさせていただきました。

国の目標値１１４人に対して、本市では、１２７人の現状維持を目標にしている部分でございます。

No. ２、No. ３はショートステイ、短期入所に関するご意見です。

No. ２につきましては「市内には、医療的ケアの必要な重度心身障がいを持った子どもたちのショートステイを受け入れてくれる病院がありません。ぜひ、こうした子どもたちを受け入れてくれる病院を増やしてください。」というご意見を頂戴いたしました。

市の考え方につきましては、計画書３８頁をご覧ください。見込量確保の方策、下から２つ目ではありますが、「医療的ケアの必要な方の短期入所サービスを受け入れることができる病院や施設等の基盤整備に対する県及び市の助成制度を活用し、受け入れ先を増やしていきます。」とさせていただきました。

No. ３につきましては、「短期入所について、サービスの支給決定はあっても利用する事業所が少ないため、予約が必要となり、急な利用ができない。事業所が増えることになればありがたい。」というご意見を頂戴いたしました。

市の考え方は、同じく計画書 38 頁 見込量確保の方策 下から 3 段目「障がい者の短期入所を受け入れることができる介護保険サービス事業所の拡大に努めます。」とさせていただきます。

No. 4 です。「市内には、知的障害者の入所支援施設はありますが、身体障害者の入所施設は、近隣では揖斐川町にしかなく、また空きもないため、待機者が多数います。一人でも多くの身体障害者が安心して生活できるようお願いします。」というものでございました。市の方針といたしましては、計画書 39 頁、40 頁をご覧ください。39 頁 中ほどの課題に記載のとおり、国の指針により、施設入所者の地域生活への移行を進めることが求められておりますことから、40 頁 見込量確保の方策の中で、グループホームの整備を促進するとさせていただきますでしたが、ご意見を踏まえ、それぞれの障がいの特性に応じたグループホームの整備の促進に努めていくことを加えさせていただきました。

No. 5 です。「障がい者の親として、近いうちに高齢となり、介護が必要になると、子供の世話をすることができません。そこで、障がい者の住居と日常生活の支援が必要と考えます。是非、グループホームを増やすことと、一生と通じて、きめ細やかな支援ができる体制を整えることを最重要課題として推進してください。」というご要望です。

市の考え方といたしましては、本計画では、40 頁をご覧ください。見込量確保の方策の中で、「国や県の補助制度の活用を促進するとともに、市においても補助金を助成し、グループホームの整備を促進します。」としており、42 頁になりますが、見込量確保の方策の中で、「障がい者が、障がいの特性に応じた支援を、ライフステージを通して総合的・計画的に受けることができる体制づくりに努めます。」といたしております。

No. 6 です。「私の子どもは授産施設に通っており、いつかは一般の企業で働かせたいと思っていますが、まだまだ障がい者への偏見や差別があり、途中で辞めてしまわないか、もし辞めてしまったら、授産施設に戻れるだろうかと心配で、なかなか、子どもを社会に送り出すことができません。計画では、一般

就労への移行について高い目標値を掲げておられるようですが、その達成には、何よりも障がい者に対する理解が必要だと思しますので、よろしくお願いします。」といただきました。市の考え方でございますが、本計画では、43頁におきまして、「市のホームページや広報、講演会や啓発活動などを通じて、障がい者に対する市民や企業の理解の啓発を図ります。」としております。

No. 7です。「私は、聴覚に障がいがあります。東日本大震災や、広島の土砂崩れ災害などで被災された方々の避難所での生活で、救援物資などの配給を受ける情報や、家族の安否情報などを得るのに困難をきたしたということを知りました。現在、手話通訳者派遣事業を利用しており、助かっていますが、災害が起きた時にも避難所に手話通訳者を派遣していただける計画にしてくださいようお願いします。」というご要望です。

計画書45頁をご覧ください。

市の考え方といたしましては、「第4章3 意志疎通支援事業」において、手話通訳者などの派遣等を行い、障がい者の社会参加を支援することとしておりますが、ご意見を踏まえ、災害等緊急時に対応できる意志疎通支援体制の強化に努めていくことを明記いたしました。

No. 8でございます。「子どもに障がいがありますが、放課後や夏休みなど、子どもが過ごせる場所が自宅にしかなく、親以外の大人や子どもたちと過ごせる機会がありません。「放課後等デイサービス事業」を早急に実施していただくよう、強く願います。」とご意見をいただきました。

市の考え方でございますが、51頁をご覧ください。第5章1 見込量確保の方策の中で放課後等デイサービス事業への民間事業所への参入を促進していくこととさせていただきます。

最後に No. 9のご意見は、「国・県・市・社会福祉協議会・社会福祉事業団の連携を密にして、書面のアンケートではなく、施設で保護者や支援員等の声を直接聞いて欲しい。」というものでございます。

市の考え方といたしましては、「本計画の実施にあたっては、障害者団体等のご意見を伺いながら、関係機関との連携のもと、進めてまいります。」とさせて

	<p>いただきました。計画の実施に際しても、今後とも、皆さま方のご意見を伺いながら進めていくという決意でございます。</p> <p>以上、パブリックコメントの頂いたご意見と市の考え方でございます。</p> <p>No. 4、No. 7 が追加事項でございます。</p> <p>以上、議事（２）第４期障害福祉計画の素案についての説明を終わらせていただきます。</p> <p>よろしくご審議賜りますよう、お願いいたします。</p>
会長	<p>まず、第３回協議会までの第４期障害福祉計画案につきまして、県から５か所の修正指摘があり、パブリックコメントでは９名の方からご意見をいただきました。それらを反映いたしまして、今回の計画案を策定したということでございます。これ以外では、前回の素案と変更はありませんでしょうか。</p>
藤課長 (社会福祉課)	<p>変更はございません。</p>
委員	<p>パブリックコメントのNo. 7 は障がい者本人が記入されて、それ以外は親さんが記入されたのでしょうか。</p>
大澤主幹 (社会福祉課)	<p>障がい者ご本人からいただいたご意見がNo. 4、No. 7、それ以外は保護者の方からいただいたご意見でございます。</p>
委員	<p>パブリックコメントの期間が１ヶ月あるのですが、９件しかなかったということでしょうか。</p>
藤課長 (社会福祉課)	<p>市の広報やホームページなどで募集いたしましたが、意見は９件しかなかったということでございます。</p>
委員	<p>それは匿名でもできるのですか。</p>

<p>藤課長 (社会福祉課)</p>	<p>匿名でもできます。</p>
<p>会長</p>	<p>これだけの資料を見て、意見を出すことは難しいかもしれませんね。</p>
<p>委員</p>	<p>パブリックコメントのNo.2 重度心身障がい者の医療的ケアの必要な子どもさんについて、市として前向きに考えてみえますが、現状、親の手術や入院などで預かり手がいなく、困って見える方も多くみえると思うのですが、県や市の助成制度を活用して、実際増えていくのでしょうか。</p>
<p>藤課長 (社会福祉課)</p>	<p>平成23年度から、施設や病院において、医療的ケアの必要な重度心身障がい者の短期入所や日中一時支援を受け入れていただいた場合、市の単独事業として報酬の加算を行っております。また、最近では、県が超重度の医療的ケアの必要な重度心身障がい者方を受け入れた病院には、医療報酬と介護報酬の差額分を埋めるという制度もございます。こうしたなか、特に、病院での短期入所や日中一時支援を希望される保護者の皆様が多いことから、市としても病院に受け入れを働きかけているところですが、なかなか難しいようでございます。病院側にとっては、受け入れには専門的知識が必要であることから、単に報酬が医療単価と同じになるだけでは難しいようでございます。西濃地域では、関ヶ原病院や西美濃さくら苑で超重度の方を受け入れていただいておりますが、市内には受け入れ先がないのが現状です。</p>
<p>副会長</p>	<p>徳洲会病院での受け入れのお話はどうなっていますか。</p>
<p>藤課長 (社会福祉課)</p>	<p>県と一緒に働きかけをしておりますが、すぐには体制が整わないようでございます。引き続き働きかけていきたいと思っております。</p>
<p>委員</p>	<p>関ヶ原病院と西美濃さくら苑が受け入れしているのは、子どもだけでしょう</p>

	か。
藤課長 (社会福祉課)	関ヶ原病院は大人のみで、西美濃さくら苑は子どもも大人も両方と聞いております。
会長	相談支援専門員の方はこのあたり、何か情報はありますか。
委員	<p>岐阜圏域では、医療的ケアが必要な方の受け入れをしていただける所が増えてきていますが、市内にはありませんので、みなさん遠くてもそちらを利用してみえます。もう少し近いところで、受け入れ先があると良いと思います。</p> <p>関ヶ原病院でも障がいの受け入れをしていただいているのですが、送迎の問題もありますし、親さんもぎりぎりのところまで、ご自分で見てみえるのが現状ですので、日ごろから、利用していただけるように働きかけていきたいと思えますし、利用者が少ないと受け入れ先も広がっていきませんので、いろいろな方に使っていただきながら、病院の方にも間口を広げていただきたいと思えます。</p>
会長	西濃では、個人病院や診療所などで受け入れしてみえる所はないのでしょうか。
藤課長 (社会福祉課)	西濃ではございません。
副会長	障害福祉計画の44頁の2章相談支援事業の中の「市町村相談支援機能強化事業」とはどういったものか説明をお願いします。
大澤主幹	国の補助メニューの中で、市町村相談支援事業の一定の基準以上を満たして

(社会福祉課)	いれば補助が受けることができる制度でございます。その補助要綱の方を持ってまいりますので、しばらくお待ちください。
副会長	26年度までは未実施で27年度から実施していくということですね。
大澤主幹	27年度実施を目標に体制を作っていく予定でございます。
(社会福祉課)	
副会長	これは、新しい事業ですか。
大澤主幹	地域支援事業の補助メニューが毎年変更しておりまして、比較的新しい事業
(社会福祉課)	でございます。
会長	<p>パブリックコメントで、No.1の親なき後は永年の課題でして、そういった中で「施設入所者を削減しないでください。」というご意見があり、切実な気持ちが良く分かります。もう一方で施設の増床は今整備計画ありませんし、定員削減ということですが、大垣市は定員削減せず、現状維持ということですね。どうしても生活の場を確保するためには、グループホームの整備が必要になってくると思います。今年になってから目にしたある資料をご紹介させていただきたいのですが、施設入所支援よりもグループホームの入所者数が上回っているという結果がでてきました。</p> <p>神奈川、大阪、宮城、滋賀で上回る結果が出ています。施設整備は止まっていますし、定員削減の方に進んでいますので、グループホームが増えてこない限りこういった心配はずっと続きます。グループホームをいかに整備しやすくするかということが今必要なことで、身体障がいの方など、障がい特性に合わせたグループホーム整備の配慮、後押しが必要だろうと思います。特に相談員の方は、相談の中で切実な問題で、入所施設もなく、グループホームもないとなると、どうやってその生活を支えていけば良いのか日々悩んでおられると思うのですが、実際どうでしょうか。</p>

委員	<p>近くにグループホームはあるのですが、現在待機者が5名ほどみえるとお聞きしています。病院の方も地域で暮らしていただきたいと、退院を進めてみえるのですが、1人暮らしもまだ難しく、ご家族の受け入れ体制も整っていないのでグループホームを希望されるのですが、空きがなく地域移行に繋いでいけないケースがあります。</p>
委員	<p>グループホームに入所したとしても、その後の対応に相談支援員が走り回らなければいけないので、ハード面だけではなく、ソフト（サービス）面もついていかないといけないと思います。</p>
委員	<p>計画相談が進むにつれて、ご本人やご家族の方も施設ではなく、グループホームで暮らしたいという声もたくさん上がってきています。実際、施設よりグループホームを希望される方が多いのですが、なかなか空きがなく数が増えない、また住民の方の障がいに対する理解が浸透していないことを感じますので、行政の方と一緒に進めていきたいと思っています。施設やグループホームで安定して暮らしている方はなかなか空かないので、グループホームが増えていかないと地域移行が進んでいけないと思います。</p>
委員	<p>第4章の日常生活用具給付等事業のところですが、「障がい者の日常生活上の便宜を図るため」とありますが、小児慢性特定疾患の研究事業も日常生活用具の給付対象になっていると思われるのですが、それは、別の計画になるのでしょうか。</p>
大澤主幹 (社会福祉課)	<p>県の要綱に沿っておりますので、この中で対応しております。</p>
委員	<p>障がい者という表現になりますと、小児慢性特定疾患事業の対象の方も使えることがわかりにくいと思います。</p>

藤課長 (社会福祉課)	「障がい者（児）」と表現させていただきます。
委員	以前は、日常生活用具に入っていましたも、市町村によって予算がないからという理由で断られたことがありお困りの方がみえたので、広く知らせていただけたら有難いと思っております。
会長	先ほどの橋川委員のご質問に対してお願いします。
大澤主幹	先ほどのご質問でございますが、相談支援体制の中で、社会福祉士、精神保健福祉士、保健師等専門職を配置し相談支援をおこなう方への指導、助言をおこなう体制が整っている場合、補助金が下りる体制でございます。大垣市としては、職員の体制はできておりますが、補助金をもらえる手続きはおこなっておりませんので、27年度目標に進めていきます。
藤課長 (社会福祉課)	既に、大垣市では基幹相談支援センターがあり、社会福祉士、精神保健福祉士、保健師等を配置をしております。こうした正規職員がこの補助対象になるかどうかは今後研究してまいりたいと思います。
委員	第5章の障がい児支援ですが、その中に医療型児童発達支援がありまして、そちらの見込量が毎年増加していく予定になっていますが、これはひまわり学園でおこなわれるのか他の事業所でおこなわれるのでしょうか。
藤課長 (社会福祉課)	市内には対象事業所がありませんので、岐阜市の希望ヶ丘学園を想定しております。
委員	先日、計画相談の方で重症心身障がいのお子さんの相談の中で、特別支援学校に入れば日中の活動の場がありますが、幼児期にはそういった場が限られて

	<p>いて親さんにもどこかないかという相談がありました。重度のお子さんを希望ヶ丘まで送迎するのは大変だと思いますので、市内に考えていただけると有難いです。</p>
<p>藤課長 (社会福祉課)</p>	<p>例えば市が設置するとなると、ひまわり学園にそうした機能を設けるということになるかと思いますが、既存施設のスペースでは難しいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>平成27年4月1日から障害児相談支援事業をおこなう準備を進めているのですが、保護者の方が未だに計画相談の意味や必要性をわかってみえないので、今後も説明をしていかなければならないと思っています。</p>
<p>会長</p>	<p>計画相談は3年目が経とうとしていますが、利用者の親さんはわかってみえなくて、なぜ必要なのかもわかってみえないというご指摘ですので、しばらくは、計画相談の意味合いや必要性を説明していく必要がありますね。</p>
<p>委員</p>	<p>スマイルブックの引き継ぎ会をおこなっていただいて大変有難いと思っています。やはり、適した時期に適した教育をとということを考えた時に、子どもを大切にしたいという観点からも、ぜひ普及させていただきたいと思います。</p> <p>障害福祉計画では、アンケート結果で、「障がい者に対する市民の意識について」を読んでもみますと十分な理解が得られないということで、それに対し第4章には、「子どもの頃から障がい者に対する正しい理解を育む」という点で、子どもから大人、大人から子どもそれぞれに情報を発信していかなければならないと思いました。今後も障がい者理解の研修などをおこなっていただき、優しい街にしていっていただけると良いと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>グループホームができない理由というのは、どういったところにあるのでしょうか。</p>

<p>藤課長 (社会福祉課)</p>	<p>障がい者に対する地域住民の理解不足もひとつの原因ではありますが、何よりも、グループホームを始めようとする民間事業所が少ないことにあります。それは、やはり報酬の面が大きいと思います。施設整備には、国や県、市の補助制度がありますが、運営面において、少人数で報酬が少なく、24時間対応できる職員体制を整える場合もあることを考えると、民間事業者が事業参入しないのではないかと考えております。</p>
<p>会長</p>	<p>地域住民の理解もありますし、報酬の面でも専門性のある職員をホームの支援者として雇用するには、現状では厳しいです。建物の整備でしたら補助制度をうまく活用していけば可能性は高いです。現に私どもの法人でも、去年の6月に建物は取得したのですが、働き手がいなくて始められないのが現状です。そこを何とかしていかないと、グループホームは増えていかないと考えています。</p> <p>その他ご意見よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、これで全ての審議を終了させていただきます。委員の皆さまには、円滑な議事進行にご協力いただきましてありがとうございました。</p>
<p>藤課長 (社会福祉課)</p>	<p>田口会長様、ありがとうございました。</p> <p>また、委員の皆様には、長時間にわたり、貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。</p> <p>第4期障害福祉計画の今後のスケジュールでございますが、本日、頂戴いたしましたご意見等を参考に、2月6日に開催されます策定・評価委員会において審議、市長に提言され、3月市議会で報告してまいります。その後、計画案を決定いたしまして、4月から、第4期障害福祉計画として、各種施策を推進していくことになります。</p> <p>委員の皆様には、第4期障害福祉計画の策定にあたり、貴重なご意見等を賜りましたことを厚くお礼申し上げます。</p> <p>なお、本日の協議会の会議録につきましては、いつものとおり、市のホームページ等で公表してまいりますので、よろしくお願いいたします。</p>

	<p>それでは、以上をもちまして、「平成 26 年度第 4 回障がい者の暮らしを支える協議会」を閉会させていただきます。</p> <p>本日は、誠にありがとうございました。</p>
特記事項	なし

主宰者等 署名